



産業構造の変化が顕著になってきました。製造業や流通業はその社会的な位置づけの変化を余儀なくされ、街の様相も目に見えて変化してきています。東京の大田区や東大阪市など、従来中小企業の製造業が集積していた地域に住居系の建物が入り込み、工業地帯は空洞化しています。かつては機械音に満たされ、活気があった建物もがらんとして放置されている例も少なくありません。今回はそのような、都市の片隅に追いやられた大空間の倉庫や工場をLGSパネルで再生させるモデルケースについて考えてみました。

ここで採用する方法は、「HOUSE E IN HOUSE」と呼んでいるもので、建屋の中に入れ子のように建屋を作るという考え方。元の建物の大空間を雨仕舞というインフラに転化して、小分けの賃貸空間をLGSシステムで作るのです。工場の飾り気のないハードコアな空気感をそのまま生かすには、それを踏襲する素材でのリノベーションが必要です。艶消し黒の焼き付け塗装を持ち味にするLGSパネルはまさに打ってつけなのです。

ここでテナント募集はテーマを統一して同系統のいろんなバリエーションを楽しめる場所にするのがいいでしょう。例えばバイク関連に絞って、個人でバイクをレストアするスペースとしての使用から、プロの修理屋さんやバイク販売のお店まで広範囲に賃貸募集します。それぞれのブースが発信するライフスタイルとエネルギーの相乗効果が、他では味わえない楽しい空間を作り出します。一種の集団アジトです。出店者同士の道具の貸し借りから始まって、コラボレーションでのイベント企画なども考えられるでしょう。既存の老朽施設利用なので、賃貸料も非常にリーズナブルに設定できるのです。

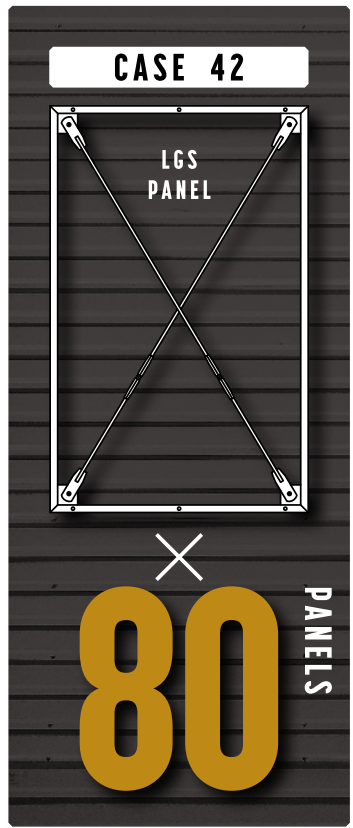
Monthly Theme

工場や倉庫の大空間を再生せよ！ LGSでのリノベーション革命

活用されずに放置されている倉庫や工場の大空間をLGSシステムで、新たなエネルギーを吹き込む。これからの日本にはとても有効なノウハウです。

デイトナが提案する
新しい建築のカタチ

DH×L
DAYTONA HOUSE×LDK



What's DAYTONA HOUSE ?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGSパネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かなりやすさと、パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

www.daytona-house.com

● INFORMATION
LDKinc.

代表:玉田敦士
www.ldk.co.jp
03-6228-4933

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。



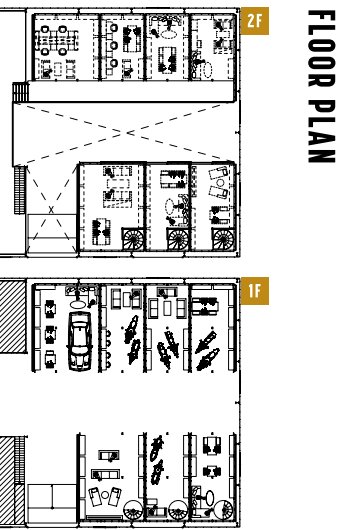
建物を斜俯瞰で見ると大空間内を立体的に利用している様子がよく分かります。天井の高い大空間を賃貸利用に転化できるところが事業化の決め手に。それでも空間の伸びやかさはかえって強調されるところが面白く、例えば街の中に新たに小さな商店街ができるようなイメージです。

FLOOR 2



2F建てのLGSブースが立ち並ぶことで、むしろ天井の高い空間のダイナミックさがより強調されます。趣向を凝らしたそれぞれのブースにあるバイクが建物全体のエネルギーを代弁。インナードグリーンなどが豊かに配置されるとさらに楽しい空間に変身します。

FLOOR 1



FLOOR PLAN

間仕切りやパーティションで空間を分節する感覚で、LGSパネルを利用する考え方。2フロアを利用できることがこの企画のキモ。防水や屋根工事などの雨仕舞が必要なため、工事もスピーディに完了します。更に外壁を塗り替えれば、老朽化した倉庫が生まれ変わります。

Photo/Ken TAKAYANAGI Text/Atsushi TAMADA



1F SHOWROOM

クルマと各種ギア類が
大空間にディスプレイ

デイトナハウス×LDKオリジナルのスチールサッシでグリッド分割されたガラスウォールと天然木の入り口ゲートのコントラストが印象的な1Fショールームの大空間。モーターライフとアウトドアライフの融合のイメージがフルスイングで展示できるスペースとなっています。この空間は軽量鉄骨フレーム「LGS」の可能性を更に示してくれるものです。



2F OFFICE

大テーブルを
皆でシェアするオフィスエリア

個人で特定のスペースを区分するのではなく、大テーブルをみんなでシェアするタイプの2Fオフィス空間。天井の力強い鉄骨の露出がショールームとの一体感を演出。ガラスで区切られてはいますが、1Fの店舗内の様子がよくわかる空間構成。ここにはハーマンミラー社製の秀逸なオフィス家具類が入ることになっています。



スーリーのアイテム、ベーシックアイテムを中心としたアパレル関連、ファットバイク関連、サッカーチームなど、「遊びの複合施設」と言う通り、中には様々なカテゴリーのショップがポップアップで展開しています。



trailhead
北海道函館市西桔梗町 825-5



このショールームは色々イメージで
けるヒントに満ち溢れています。ハ
ードコアな鉄骨の素材感に適度なゆ
るみを与えてくれる木質壁のバラ
ンスや、豊富な観葉植物の瑞々しさの
相乗効果など、ここで感じられる空
間の気持ちよさは、自由な脳細胞の
発想を元気づけてくれるでしょう。
ここを運営するデイトナハウス函
館の法人名は「ASOBO」。まさに
仕事と遊びのポータルなライフス
タイルを標榜する会社で、ボディン
グショップを経営する山口代表が、新た
に建築業に参入して、そのショール
ーム兼オフィスとして登場したのが
この場所なのです。斜陽産業の代表
格といわれる建築業の新たな解
釈。登山口という訳語の通り、これ
から構築する新たなライフスタイル
提案の場所として、また、ワクワク
のはじまりの場所として、ここtrail
headは存在しているのです。これに
可能性を感じないわけにはいきませ
ん。是非一度、そのポテンシャルを体
感してみたいかがでしょう。



建物向かって左側の大きな庇のゾーンでは、リベアを終えたクルマの納車が行われるスペースとして設定されています。2フロア分の高さの庇が、アメリカ西海岸のミッドセンチュリー代表建築「イムズハウス」を彷彿とさせます。



デイトナ不動産



北海道は函館に誕生した ライフスタイル発信基地

モーターライフはもちろん、アウトドア、自転車など様々なライフスタイルを複合的に表現した函館のショールーム「trailhead」。
デイトナハウス×LDKの新たな可能性を感じさせる情報発信基地が遂にオープンしました。

このほど函館市内にその姿を現したデイトナハウス×LDK函館のショールーム「trailhead」。均整の取れたガラスの箱のような建物は、周囲の風景を一言させるほど印象的で、独特のオーラを放っています。スチールのガラスサッシに覆われたその姿は、時代でいえば1930年代のアーリーモダンの雰囲気を感じさせ、シャープで切り立った意匠ながら適度な柔らかみがあるイメージ。言わば人肌のモダンイズム。画一的なアルミサッシとビニールクロスで仕切られた建物の羅列に飽き飽きした人にとっては、とても新鮮に感じられることでしょう。露出した鉄骨の素材感も、その印象の重要な要素です。ペンキ塗りの鉄骨ではなく、焼き付け塗装独特のマットな風合いは、他では滅多にお目にかかれませんが、ガラスで覆われた内部の空間は、モーターライフはもちろん、自転車、釣り、キャンプなどのアウトドア系ライフスタイルとの融合をイメージしたショールームになっています。単に「住む」「食べる」「寝る」という従来の生活感から離れて、楽しく、元気で、精力的に生活することをイメージする人にとって、



1Fショールームから2Fオフィスへの空間移動はオリジナルの螺旋階段「ダイナソーボーン」で。大きなガラスFIX開口を通して外部から見る螺旋階段は、いつもながら、しばし見とれてしまうほど美しいです。



デイトナハウス×LDK函館 山口甚晃代表

デイトナハウス×LDK函館を運営する株式会社ASOBOの代表。その名が示す通り、遊びのあるライフスタイルを提案することをコンセプトにしており、山口代表自身、フライフィッシング、キャンプ、自転車でのトレイルなどを実践する遊びの達人でもあります。